

D X 協働モデル事例創出プロジェクトの実施について

1 要旨・目的

「令和8年度中小企業等D X推進事業」における「D Xの着手に向けた取組の後押し」の一環として、同業種等の小規模事業者等が協働してD Xに取り組む事業（D X協働モデル事例創出プロジェクト）を実施し、D Xに取り組む事業者の裾野拡大を図る。

2 現状・背景

令和7年度D Xに関する実態調査によると、県内の民間事業者の約5割がD Xの必要性を感じているものの、実際に取り組んでいる事業者は約3割にとどまっており、特に小規模事業者ほどこの傾向が顕著である。また、小規模事業者の多くは人材、予算、ノウハウ不足といった課題を抱えている。

こうした中、本プロジェクトでは、デジタル技術を活用し、小規模事業者が抱える共通の課題を連携して解決する枠組みを構築することを目指す。

3 概要

（1）実施内容

県内小規模事業者等のD Xを促進するため、低コストかつ短期間での導入効果が期待できる生成A Iを活用し、「飲食業界D X」「理美容業界D X」「バックオフィスD X」の3テーマについて、共通課題を解決する仕組みを構築する。

テーマごとに、事業者へのアンケートを通じて共通する課題を特定したうえで、「学び」「検証」「実装」の3段階で解決策の構築を進める。

このプロセスを通じて、生成A Iを「学ぶ」だけで終わらず、事業者の共通課題を解決する仕組みを事業者と共につくり、実業務への定着と効果の見える化までつなげていく。

① 学び	➡	② 検証	➡	③ 実装
生成A Iの基礎知識と活用方法を習得		共通課題の解決策をモック（試作版）で検証		開発システムを実業務に導入・定着
・集合型セミナー開催 ・ワークショップ実施 ・「自社でもできる」意識の醸成		・モック体験ワークショップにて協働検証 ・参加事業者の声を収集し必要機能を具体化		・実務導入ハンズオン支援 ・業務への定着まで伴走 ・効果検証

（2）対象者

広島県内の小規模事業者等（1テーマ当たり10～15事業者）

（3）募集期間

令和8年10月13日（火）～10月31日（土）

※募集方法の詳細は下記の特設サイトに掲載

(4) 参加費

セミナー・ワークショップ参加費は無料

※受講に必要となる生成A I の有料プラン（月額 3,000 円程度）の利用料は参加事業者の負担

(5) 問合せ先

「令和 8 年度D X協働モデル事例創出プロジェクト」事務局

（業務委託先：株式会社エル・ティー・エス）

メールアドレス：pj_hiroshima-dx@lt-s.jp

特設サイト：<https://funade.hiroshima-dx.jp>

(6) 支援内容とスケジュール

プロジェクト 進捗フェーズ	時期	内容
企画・準備	9 月～10 月上旬	○テーマごとに小規模事業者等にアンケートを実施し、各テーマにおいて多くの事業者が共通して抱える課題（共通課題）を特定・整理する。
募集	10 月中旬～下旬	○特定・整理した共通課題の解決をテーマとして掲げ、参加事業者を募集する。 ○アンケートを基にモックを作成する。
①学び	11 月	○参加事業者は、セミナー・ワークショップを通じて、生成A I の基礎知識と活用方法を習得する。 ・合同セミナー 1 回 ・テーマ別ワークショップ 1 回
②検証 ③実装	12 月～令和 9 年 2 月	○テーマ別ワークショップにおいてモックを実際に体験し、参加事業者の声をもとに必要な機能を具体化、これを反映しシステムの本格開発に着手する。参加事業者とともに検証・実装を推進する。 ・テーマ別ワークショップ 3 回 ・実装フェーズに進む事業者対象ハンズオン支援実施
効果検証 成果公表	令和 9 年 3 月	○プロジェクト実施結果を公表する。

※上記セミナーのほか、情報セキュリティ対策に係る法務セミナー 2 回実施

4 予算額（単県）

13,000 千円

【参考】テーマごとに想定される課題や解決策の例

テーマ	想定される課題	課題解決の方向性（例）	システム開発の方向性
飲食業界DX	・POSシステム導入は進むものの、日々のデータ（予約、在庫）が紙や複数システムで分散管理されており、データの一元管理が進んでいない。 ・大手・中堅チェーン店で導入されているキャッシュレス・モバイルオーダー等について、小規模事業者では導入・活用に一定のハードルが存在する。	・データを一元化したうえで、在庫管理や顧客管理のリアルタイム化を実現し、業務効率化・サービス改善につなげる。 ・キャッシュレス対応や多言語対応を改善することで観光需要を取り込む。	■システム構築型 ・AI開発事業者が共通のAIシステムを開発し、各事業者が自社の環境に合わせて活用する。 ・開発した仕組みはオープンソースとして公開し、（学生エンジニア等の）意欲ある担い手が継続的に改善・発展させることで、利用者と開発者が共に支える運用体制を構築する（次年度以降）。
理美容業界DX	・予約システムは普及し、顧客データが蓄積されているが、リピート獲得に向けたデータ分析やその分析結果の活用が進んでいない。 ・DX導入・運用に割ける人員が限られている。	・メニューごとの来店周期に基づき「そろそろ来店時期」の顧客へ自動リマインドを行い、再来店を促進する。 ・共通AIシステムを開発し、データ分析や顧客アプローチの手間を削減する。	
バックオフィスDX	・個別のAI活用は進んでも、組織的なルール・可視化・共有・管理の仕組みが欠けているため、全社的な効率化が実現できていない。	・「業務診断（アンケート） → 効果検証（モック体験） → エージェント設計 → 構築・運用（実装）」のステップにより、特定の担当者に頼らない組織的な自動化を実現する。	■AIエージェント育成型 ・AI事業者がAIエージェントの構築方法を各事業者に共有し、伴走しながら各社の業務に適したAIへカスタマイズする。 ・完成したシステムを提供するのではなく、AIを育て、活用する方法を伝授することで、社内にノウハウを蓄積し、継続的に活用できる人材を育成する。

※ 3つのテーマについては、公募型プロポーザルにより選定された提案をもとに決定した。

※ 上記の「想定される課題」は現時点でのイメージであり、実際に取り組む課題は事業者アンケート等によって特定・決定する。